

回想法センター・創り・5月号

平成28年 4月25日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台 5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www.piakaiso.sakura.ne.jp

蝶が楽しげに舞っています

本人に聞いてみよう

小さな町を作り、その町を高い塀で囲み、町の中には、認知症の高齢者と介護する職員や関係者だけが住む施設が注目を浴びているそうです。海外の話です。施設の中では、認知症の方たちは日常の生活、買い物や通院など、町の人を装ったスタッフに見守られながら暮らしているそうです。社会と隔離した施設について賛否両論があるようです。

誰でも年をとれば認知症になるといわれています。認知症になったら何もかも分らなくなる、出来なくなると思っている方も多くいます。認知症になっても出来ることはあります。分ることもあります。ただ、何らかの障害があって、うまく話したりできなかつたりするだけなのです。

認知症は病気ではなく症状です。その人の症状にあった対応をしてあげればいいのです。この人は認知症だからと決め付けるのではなく、まずはその人の心に耳を傾け、まずは本人に聞いてみるのはどうでしょうか。目の前にいる高齢者は、何年後かの自分の姿です。認知症高齢者から学ぶことはたくさんあると思います。誤解や偏見をなくすことが、誰でも楽しく暮らせる住みやすい町になると思います。

出来ないことに手を貸す

我が家の母も、ケガをしたことや出かけたことなど今日の出来事を覚えていません。新聞も、「これまだ読んでいないわ」と、毎日同じ新聞を読んでいます。家族とも会話がかみ合いことばかりです。そんなときは「どうしたんだろう、おかしいね」と、実に情けない顔をします。私たちは、新しいことを覚えられない母に「頭の中がいっぱい新しいことが覚えられないだけ。大丈夫、新しいことは私達が覚えているから、分らない時や困った時はいつでも私たちに聞いて」と、いい続けて10年が過ぎました。母は、「ここにいると心配することがない。ここは極楽」と、穏やかに101歳を迎えることが出来ました。母の出来ないことだけに手を貸してあげるだけで今でも、何とか自分で出来ることは何でも母にやらせています。着替えも時間がかかりますが、時間がかかっても家族は見守るだけで手は出しません。孫や曾孫の声を聞きながら、ほとんど一日ベッドで寝ていますが、機嫌の良いときは孫たちと「ばば抜き」を楽しんでいます。出来ないことだけに手を貸すことが長生きの秘訣かな？そんな気がしています。

5月の予定

- * **おしゃべりサロン** 2時～4時
開催日 5月9日(月) 23日(月)
開催場所 龍ヶ崎市役所地下食堂
- * **認知症家族会あおぞら** 1時30分～15時
開催日 5月4日(水)はお休み 6月1日(水)
開催場所 龍ヶ崎市民活動センター・多目的室
- * **笑顔屋** 10時30分～12時 龍ヶ崎ショッピングセンター**リブラ** 1階

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター
080-4209-5708 担当 赤嶺